

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	松山市別府町183番地2
自己評価作成日	平成26（2014）年6月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季折々の花々や野菜に囲まれ、四季を体で感じることが出来る。
職員は、勤勉で研修、施設内の取り組みに熱心である。
職員全員が施設が好きで、生き生きと仕事をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

献立は、一週間ごとに曜日に沿って、魚の日、お肉の日等決めておられるが、利用者主体の献立作りに困ったこともあり、法人代表者のアイデアで職員が、「献立カード」を作成された。揚げ物、煮物、又、じゃがいも、ホウレンソウ等、調理方法や食材別に写真入りのカードを作り、より利用者が選びやすいよう工夫をされている。献立表には、評価の欄を設け、利用者からの感想を書くようにされている。若年の利用者の掛け声で食事前には口腔体操を行っておられ、食事やおやつの際には音楽をかけ、電気を明るくして食べることを支援されている。協力歯科医を招き勉強会を行う等、事業所では口腔ケアに力を入れて取り組まれている。
若年の利用者は、事業所内での役割として共用空間等のモップかけを行えるよう、介護計画に採り入れて支援されている。利用者は、モップかけを行うことが習慣となって、ご本人の自信へとつながっているようだ。計画に沿って、具体的な支援を記した「個別ケア方針」を個々に作っており、職員で回覧して統一したケアができるよう取り組まれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム媛の華

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 大原 チスカ

評価完了日

平成26(2014)年6月16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>2月頃より職員間で話し合い、何度も検討を重ね、運営方針と行動指針を作成している。3月の職員会議にて次年度の運営方針及び行動指針を公表すると共に、朝・夕の送り時にも確認し合っている。何度も確認することで意識付けを行い、実践に繋げている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>平成21年度に「安心・安全で楽しく地域の中で共に支え合っ生活できる場を提供します」と理念をつくっており、居間に掲示されている。又、職員が意識統一して取り組めるよう、年度ごとに「運営方針」と「行動指針」を作り、運営推進会議時にも報告されている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に出席していただき、利用者の近況報告、災害時の協力依頼等を行っている。栗の里の移動販売のチラシを配り、1人でも多くの参加をお願いする。お祭り等、地域の行事も継続して積極的に参加している。 また、施設職員のペット(犬)を通じ、日常的に隣マンションの住民と交流をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>毎月、中山町から野菜やお惣菜等を乗せた移動販売車が来てくれており、チラシ配布で近所の方にもお知らせして数名利用されている。運営推進会議に参加する民生委員の方が近くの小学4年生の子ども達を4～5名連れて来てくれ、利用者とふれあう機会を作ってくれた。プレゼントしてくれた紙細工は居室に大事に飾られていた。事業所周辺の地域性等もあって、地域の方達とのつきあいにに向けた取り組みが、なかなか進みにくい現状にある。</p>	<p>法人代表者や相談員の職員は、事業所が地域と協力し合うことの大切さを感じており、今後は、若い職員からアイデアを出してもらいながら、新たな取り組みをすすめていきたいと考えておられる。事業所周辺には小学校や高等学校、又、児童館や公民館等、いろいろな資源があり、法人代表者は、「事業所側から積極的に地域へ足を運ぶことが大事」と話しておられた。今後さらに、地域との相互理解や協力につながるような取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。</p>
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議などの機会に、認知症ケアや当施設での取り組みについて説明し、民生委員を通じて地域住民に有益な情報提供ができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎回、施設の近況報告を行い、利用者への取り組みについてスライドなどを用い出席者に報告している。出席者の意見・評価を参考にし、更なるサービス向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議は、民生委員や他グループホームの方、利用者、職員が参加して開催されており、必ず、職員手作りのいちご大福やかぼちゃプリン等のおやつを用意してもてなしておられる。事業所から利用者の現状や活動を報告し、職員は事業所で取り組んでいる「座ってできる媛の華体操」を紹介したり、「らくらくオリジナル献立作り」について説明されたり、「思い出ムービー」をみてもらいながら一年間の活動を振り返ったりされている。今後さらに、参加しやすい会議に向けた工夫を重ね、地域からの参加者を増やしていかれてほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃から市町村の介護保険課には連絡を取り、施設運営の協力を得ている。また、運営推進会議に参加していただき、施設の近況報告を行い、適宜な指導をいただいている。生活保護の利用者様については、生活福祉課へ、その都度、連絡相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者や地域包括支援センターの担当者が参加し、感染症の注意事項やグループホーム連絡会や研修について、情報提供してくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に関する施設内研修により、職員一同が身体拘束について正しく理解し、原則として身体拘束はしない方針を周知している。また、門扉・玄関は、夜間を除き施錠は行っていない。 但し、生命維持等の観点からやむを得ない場合には、検討を重ねた上で家族に同意をいただき、最小限の身体拘束を行うことがある。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関やユニット入口は解放されており、自然の風が入っていた。利用者が行方不明になった時に、いち早く利用者の情報を提供できるよう、個別ファイルの1ページ目に利用者の全身の写真や身長、年齢、状態等を記した用紙を綴じておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する施設内研修を行い、虐待防止を徹底している。ミーティング時に新聞に掲載されている記事を取り上げ、各職員に注意喚起を行っている。 また、日々の介護の中で、言葉遣い等も注意を払うよう、職員相互に声を掛け合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度に関する研修を行い、制度についての理解を深めている。 また、成年後見人制度を利用されている利用者があるため、制度に準じた対応ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 書面による説明を行い、重要な箇所については、より丁寧に説明を行っている。また、不明な点がある場合は、その都度説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各種会議(職員会議、家族会議、運営推進会議)等を通じ、施設内外へ意見や要望を表せる機会を設けている。また、そのような意見・要望がある場合には、検討し、運営に反映させられるよう努めている。 (外部評価) 毎月、利用者の様子を手紙にしてご家族に送付したり、電話連絡等して報告や相談をされている。利用者への関心や関係が希薄だったり、足遠くなっているようなご家族もあり、12月の家族会は、2回に分けて行い、事業所の一年間の活動をまとめた「思い出ムービー」をすべてのご家族にみてもらえるよう取り組まれた。参加が難しい方には、来訪時を捉え見ていただいた。便りを通じて事業所でプルタブやペットボトルのキャップを集めていることを知らせており、協力してくださるご家族もある。	事業所では、利用者それぞれがご本人らしく暮らし続けられるよう、暮らしとケアについてご家族とゆっくりお話する機会を作っていきたくと考えておられる。又、ご家族と一緒におはぎを作ったりして、一緒におやつを楽しむような機会も作ってみたいと話しておられた。今後はさらに、ご家族と一緒に活動するような機会作りを工夫して、意見や要望をお聞きする等、信頼関係を作っていかれてほしい。さらには、利用者ご家族の関係再構築につなげていけるような取り組みも期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議、各種検討会議、ミーティング、その他個別の場を設け、職員からの意見や提案を聴いている。また、検討し、必要に応じてそれを反映させられるよう努めている。	
			(外部評価) 職員個々に資格取得を目指して、地域の病院で行われる研修へ参加したり、事業所内の勉強会では、テーマに沿って職員が持ち回りで資料を作成して勉強をされている。現在、介護度重度の利用者への食事介助等、時間をかけて支援しており、職員は、手不足を感じる面もあるようだが、職員同士のチームワークもよく、サポートし合って取り組まれている。パソコンが得意な職員が便りや思い出ムービーを編集する等、特技を活かし取り組まれている。相談員の職員は、今後さらに、先輩職員が新人職員を育てる仕組みや職場内託児所のような環境もつくり、さらに職員が長く働ける環境を整備していきたいと話しておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 社会保険労務士などとも相談しながら、適宜対応している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月、施設内研修を開催し、毎日曜日にも勉強会を開催している。また、資格取得を目指す職員やパソコン指導などを必要とする職員には、個別研修を行っている。 その他、外部研修への参加も促すと共に、職員も必要に応じて参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種会議(運営推進会議、事業者連絡会など)を通じ、他施設との交流を行っている。また、会議等で相互に情報交換をし、学んだことをサービス向上に繋げられるよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する段階前より、受入れの関係者に情報を得て、本人の状態を把握するよう努めている。また、面談時には、本人や家族の要望を傾聴し、和やかな雰囲気を作ることで、安心と信頼を感じていただける関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時、家族等の要望を伺い、共感し、家族に寄り添うことで、信頼関係を深める努力を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時に各職種の職員が連携し、利用者様と家族等の話を傾聴すると共に、様子を伺いながら、利用者・家族の必要としている支援を見極め、その都度対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の話しに耳を傾け、共感することにより、より良い関係を築き、家族の一員として共に過ごし、楽しみ、哀しみを共有し、信頼関係を築ける支援を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人・家族の意向を真摯に受止め、本人と家族の結びつきを大切にし、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔からの馴染みの美容院に行かれたり、知人が尋ねて来られた際には、居室でゆっくりお話をして楽しんでいただいている。利用者が希望した際には、家族や友人に電話をかけた後、お手紙の返事を書いていただくなど、関係が途切れないよう支援している。	
			(外部評価) 利用者がご家族等に年賀状や暑中見舞いを出せるよう、介護計画等にも盛り込みながら支援されており、お返事をくださるご家族もある。利用者から「友達のことが気になる」という声があれば、ご家族と相談して連絡してみるようなこともある。ご家族が海のそばで仕事しているということもあり、「海がみたい」と利用者から希望があれば、海までドライブすることもある。調査訪問時、「お嫁さんがこの洋服を買ってきてくれたのよ。いつもよくしてくれてうれしい」と話してくれ、利用者がおられた。ケアマネジャーは、子どもにかかわる仕事をしてきた利用者と一緒に、近くの児童館を訪れてみることを計画しており、利用者の様子等を観察して、今後の支援につなげていきたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中は、リビングなどで活動を行っていただき、利用者同士の関わりが持てるよう支援している。また、コミュニケーションの困難な利用者に対しては、職員が間に入る事で、孤立しないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 移り先の関係者に速やかに情報提供を行い、ご本人が安心して暮らせるようにしている。ご本人・ご家族の経過をフォローする必要がある場合は、可能な範囲で相談や支援を行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その都度、ご本人やご家族の希望を伺ったり、生活歴シートを分析し、意向の把握に努めている。困難な場合は、ご本人の意向に出来るだけ沿う事が出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者のことをより理解できるよう、昨年末から、「生活歴シート」に沿って、個々に、年代ごとに経験したことを記入して、さらに、「なじみの人、場、食べもの」等の情報を集める取り組みを始めておられ、ご家族に改めてうかがったり、職員が得た情報をまとめているところである。「人が喜んでくれるのが好き」という利用者は、得意なかぎ針編みで帽子やマフラーを作り、職員等にプレゼントされる。毛糸は職員と一緒に買いに出かけるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族に生活歴を記入していただき、利用者様からは日常の会話の中から必要な情報を得られるよう努めている。 入所前に利用していた医療機関や介護保険サービス事業所から情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様ひとりひとりの生活リズムを把握し、行動や言葉、表情からその人の出来る事を検討することで、現状把握を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) モニタリングや担当者会議等において、利用者のニーズやできること、できないことを再確認し、ケア方針を決めている。また、家族には、必ず連絡・報告を密にし、電話・面会等で希望を伺うことで、介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 若年の利用者は、事業所内での役割として共用空間等のモップかけを行えるよう、介護計画に採り入れて支援されている。利用者は、モップかけを行うことが習慣となっており、本人の自信へとつながっているようだ。計画に沿って、具体的な支援を記した「個別ケア方針」を個々に作っており、職員で回覧して統一したケアができるよう取り組まれている。利用者の状態によっては、平行棒を使って歩行練習する方もいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やケア内容はすべて細かく記録し、ミーティング・職員会議などを通じ、報告・意見交換を行い、記録に残すことで情報共有している。 また、記録や検討内容を踏まえ、介護計画作成に活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々の介護の中で、常にニーズを把握し、状況が変化した際には、すぐに見直している。 また、家族から様々な要望があるが、可能な範囲で柔軟に対応するよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、民生委員、地域住民の方にも出席していただき、利用者様の近況を報告し、災害時等の協力をお願いしている。 栗の里の移動販売では、地域の方にもチラシを配るなどして、少しでも交流が持てるよう働きかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 365日24時間往診可能なかかりつけ医と密に連携を取り、適切な対応を行っている。また、ご本人及びご家族の希望があれば、他医療機関に受診ができるよう、かかりつけ医と相談し、受診支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 協力医は定期的な往診や、いざという時には毎日来てくれている。協力医が講師となり、「ターミナルケアに関する研修」を行い、職員で勉強する機会も作っている。協力医は敬老の日におまんじゅうを利用者にプレゼントしていただき、利用者は大変喜ばれたようだ。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の小さな変化でも施設看護師、及び協力医療機関へ報告・相談しており、その都度、迅速、且つ、適切に対応している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 利用者の入院時には、日常生活や服薬状況などサマリーとして入院先医療機関に情報提供している。協力医療機関や家族・入院先医療機関と相談しながら、施設での早期受入れが行えるように努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 早い段階で、ご本人、ご家族の意向を伺い、それに添ったケアができるよう、かかりつけ医と情報交換を密に行っている。必要時は、かかりつけ医と家族を交えて話し合いを行い、意思確認を何度も行っている。また、その結果を介護職員に周知し、全職員が一つになり看取り支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 介護度が重度になってベッド上で過ごす時間が長い利用者も、床ずれができないようなケアに心がけておられ、これまでも床ずれができた利用者はいないようだ。「病院は嫌」「ここで死にたい」と希望のある利用者を看取った事例では、ご家族も事業所での看取りを希望され、介護計画は週に1回見直して、ご家族と連絡を取り合い確認してもらいながら、支援に取り組まれた。利用者の「過ごしやすい環境づくり」「お好きな音楽を流す」等してご本人らしく過ごせるよう支援された。看取り支援を経験して、看護資格を有する職員は、「ご家族との関係づくりの大切さ」を感じておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修や勉強会で、全職員が、急変時や事故発生時の対応について周知するよう努めている。また、心肺蘇生法を学ぶため、救命キットなどを使用し、訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防避難訓練は、日中、及び夜間想定で消防署指導の下、定期的に行っている。また、地震対策を行うと共に、地震体験車による訓練を実施している。 運営推進会議の際には、民生委員や出席住民の方へ、災害時の協力依頼を行っている。 (外部評価) 毎月第一火曜日に消防設備点検を行っておられる。昨年11月の避難訓練は消防署の協力を得て、夜間火災を想定して行われた。今年5月にも実施し、運営推進会議時に報告されている。4月の運営推進会議では、職員が「東日本大震災から学ぶ南海トラフ地震への対応」と題して、今後の事業所における防災対策について報告された。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室には、1人の空間が出来るよう、防災のれんを使用し、プライバシーを確保している。人格・人権を尊重し、人生の先輩としての言葉かけや対応を行っている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会時には、習字がお上手な利用者に毛筆で会名を書いてもらったり、若年の利用者には、「一番やりたいこと」を探り、「甘いものがお好き」なことや「歩きたい」という希望を優先した支援に取り組まれている。そのような取り組みから信頼関係が築かれ、穏やかな日々を送ることにつながっている。2ヶ月に1回、訪問美容師が来てカットしてくれたり、ご家族となじみの美容室に出かける方もいる。法人代表者は、昔ながらの親子のふれ合いのあり方を大事にしながら、新しいケアとも合わせ、これからの介護を考えていきたいと話しておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員ではなく、ご本人が自己決定できる様に、常に利用者様を観察し、言いたいことやしたい事に気づき、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の日課などは決まっているが、一人一人のペースに合わせ、希望に沿って過ごしていただけるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の利用者様にはマニキュアを塗ったり、お化粧品をしている。また、衣服もご本人の好みに合わせながら、明るい色の服やおしゃれな柄の物を着ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は、職員の手作りを基本とし、毎月1日(小豆ご飯の日)15日(お寿司の日、お誕生日ケーキ)を恒例メニューとしている。その他、日常の献立もバラエティに富んだものを作成しており、和洋中をはじめ韓国料理、母の日・父の日オムライスなど多彩である。また、利用者様が配膳、台拭き等を手伝う事で食事作りに参加している。	
			(外部評価) 献立は、一週間ごとに曜日に沿って、魚の日、お肉の日等決めておられるが、利用者主体の献立作りに困ったこともあり、法人代表者のアイデアで職員が、「献立カード」を作成された。揚げ物、煮物、又、じゃがいも、ホウレンソウ等、調理方法や食材別に写真入りのカードを作り、より利用者が選びやすいよう工夫をされている。献立表には、評価の欄を設け、利用者からの感想を書くようにされている。若年の利用者の掛け声で食事前には口腔体操を行っておられ、食事やおやつの際は音楽をかけ、電気を明るくして食べることを支援されている。協力歯科医を招き勉強会を行う等、事業所では口腔ケアに力を入れて取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各職員で、毎月バランスの取れた献立を作成し、協力医療機関の管理栄養士にチェックを受けている。また、カロリー制限が必要な利用者様については、その方に応じた食事を提供している。水分摂取についても、おやつ以外の時間にも飲み物をお出しすることで脱水を起こさないよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人一人に合った口腔ケアの方法で、ご本人が出来ることは行っていただき、その後、職員がチェックしている。定期的に施設看護師が口腔チェックを行うと共に、年に1回、全員歯科検診を受け、必要に応じ歯科治療を受けることで、口腔内の清潔保持を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排便チャート表に排便状況を記入し、一人一人の排泄パターンを把握できるよう努めている。また、トイレに座る習慣をつけることで失禁を減らし、失敗が見られる場合には、職員間で話し合い、改善に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>おむつ着用で失禁が多くみられる利用者に、日中の活動を促したり、入眠剤を調整し、さらに夜間もトイレ誘導して支援を重ねることで、現在はご自分でトイレに行き、排泄できるまでに改善している事例がある。その過程が利用者ご本人の自信になり、穏やかで笑顔のある暮らしにつながっているようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>バランスの摂れた献立を作ると共に、声掛けをして水分をしっかり摂っていただく。また、毎日のリハビリ運動と体操を継続実施している。排便のない場合には、かかりつけ医の指示の下、整腸剤や下剤で対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴日は決まっているが、入浴の時間や順番等は、出来るだけ利用者の希望に応えられるようにしており、冬はゆず湯にするなど季節の変化を楽しんでいただいている。また、入浴日以外は清拭をすることで、清潔を保持している。 その他、必要に応じてその都度シャワー浴をしたり、看取り期に入った利用者については、清拭やドライシャンプーなどを使用し、清潔を保持している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>冬場は週に2回、夏場は週に3回入浴できるよう支援されている。介護度が重度の利用者も職員が2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>健康や生活リズムに配慮しながら、一人一人の希望に沿い適宜、休憩を取っていただいている。また、日中、寝すぎないように余暇活動の時間を設け、全利用者に声掛けし、夜間落ち着いて眠れるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法や量が本人に合っているか、常に検討し、定期の診察時に医師に報告して指示を仰いでいる。特に、下剤に関しては、個別に排便チャートを利用し、変化を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の利用者様の生活歴などを参考にし、ご本人の趣味、楽しみごとを可能な範囲内でしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の思いを受止め、出来る範囲で戸外へも出かけている。季節のイベント等も利用者に希望を聞き、外出している。個人的な外出については、施設内で相談し、家族に了解を得て外出している。 また、体調を見ながら、家族や友人・知人との外出も自由にしていただいている。	
			(外部評価) 外出した時には、道の駅等で食事して帰ることもある。今春には、介護度が重度の利用者もお花見ができるよう職員で話し合い支援に工夫された。季節に応じて、見奈良へコスモスや菜の花を楽しみに出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外食をしたり、買い物に出かけた際には、レジで支払をしていただいている。また、移動販売での買い物においては、商品の値段を確認していただき、購入金額を把握していただくことで、金銭感覚を保てるよう働きかけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの手紙に対し、利用者本人に返事を書いていただき、写真と職員のコメント(近況報告など)を添えて送っており、大変喜んでいただいている。季節のご挨拶(年賀状や暑中見舞いなど)が書ける利用者には、書いていただいている。 また、利用者から家族や友人・知人に連絡をして欲しいと言われた際には、電話できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活環境が落ち着くよう、温度・照度・音量などには留意している。 また、施設の周りには、四季折々の花や野菜を植え、共用の空間には、居心地良く過ごせるように、花などを置いている。更に、毎月、リビングや居室の壁には季節に応じた掲示物を貼っている。	利用者にとっては、職員が作り出す雰囲気も大切な環境の一つである。この機会を活かして、利用者の住まいとしての環境について、配慮や工夫できることはないか点検してみてもどうか。たとえば、職員の制服や対応等、利用者個々のご自宅での暮らしぶり等もうかがいながら、話し合ってみてはどうか。
			(外部評価) 車いすを自走して利用する方が多く、食堂はテーブルを2つ付けて使用し、車いすが通れるスペースを作っておられる。玄関前の駐車場でラジオ体操したり、お花や野菜の世話の様子を見に出られるよう支援されている。事業所では音楽を大切に考えておられ、利用者が認識できるよう食事、リハビリ時、午前、午後、曲を替えて流しておられる。又、食事内容によっても曲を替えているようだ。調査訪問時、利用者は日中食堂のテーブル席で過ごされており、雑誌を読んだり、編み物したり、パズル等して過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い利用者を隣席にしたり、時には、1階2階利用者が相互に行き来している。天気の良い日は、外のベンチで日光浴をしながらお話をされてる。また、読書や編み物をするなど、思い思いに過ごせるよう自由な雰囲気作りを行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に馴染みの家具や植物を置くことで、落ち着いて過ごしていただけるようにしている。	
			(外部評価) 居室入口には、全部屋レースの防災のれんがかけられており、戸を開けて使用されていた。利用者の写真等を飾っており、溜まったらご家族に差し上げるようにされている。ご家族が化粧品を買ってこられ使用している方や、書道展に出展して敢闘賞をもらい、賞状を額に入れて飾っている居室も見られた。ベッドで長時間過ごす利用者には、職員が食事を運び、ベッドをヘッドアップして食事介助をされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要に応じ、利用者一人一人のケア方針をその都度見直し、できること、分かることをケアに反映させることで、安全に自立した生活ができるよう支援している。	